

令和7年度補正予算「省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費補助金」
「工場・事業場型」における『先進設備・システム』公開用概要書

製造会社情報（コンソーシアムの場合は、幹事社）

設備/システム名	MVR型（自己蒸気機械圧縮型）蒸発濃縮装置－小型
製品種別	エネルギー負荷設備（本体設備）
型番	EVCC-■ 注記 ■は1日当たりの蒸発トン数、B(バッチ)のアルファベットが付く場合あり
会社名	株式会社ササクラ
本社所在地	大阪市西淀川区御幣島六丁目7番5号
会社WEBページURL	https://www.sasakura.co.jp/
製品紹介ページURL	https://www.sasakura.co.jp/technology/products/category/detail/3

製品についてのお問い合わせ先

連絡先	水処理営業室 TEL：06-6473-2930 東京水処理営業室 TEL：03-5566-1212 担当：前田 メールアドレス：evapo_wts@skm.sasakura.co.jp
-----	--

登録設備情報

導入可能な主な業種・分野	E. 製造業		
導入対象となる分野・プロセス	工場排水処理・生産プロセス、酸・溶剤回収プロセス、食品・飲料の生産プロセス		
導入事例の省エネ量（原油換算：kl）	45.7	kl/年	
工場・事業場当たりの想定省エネ率	—	%	
設備・システム当たりの想定省エネ率	60.5	%	
導入事例における費用対効果（年間）	13.8	kl/千万円	
1台又は1式当たりの想定導入価格（参考）	33,000,000	円	
保守・メンテナンス等の年間ランニング費用	1,500,000	円/年	

製品・システムの概要

従来は外部へ排出していた廃熱（未利用熱）を、ヒートポンプ（蒸気圧縮機）にて昇圧・昇温し自己の加熱源として再利用することで、処理液を蒸発させる為の投入エネルギーを大幅に削減した高効率・環境低負荷型でかつ小型の蒸発濃縮装置。

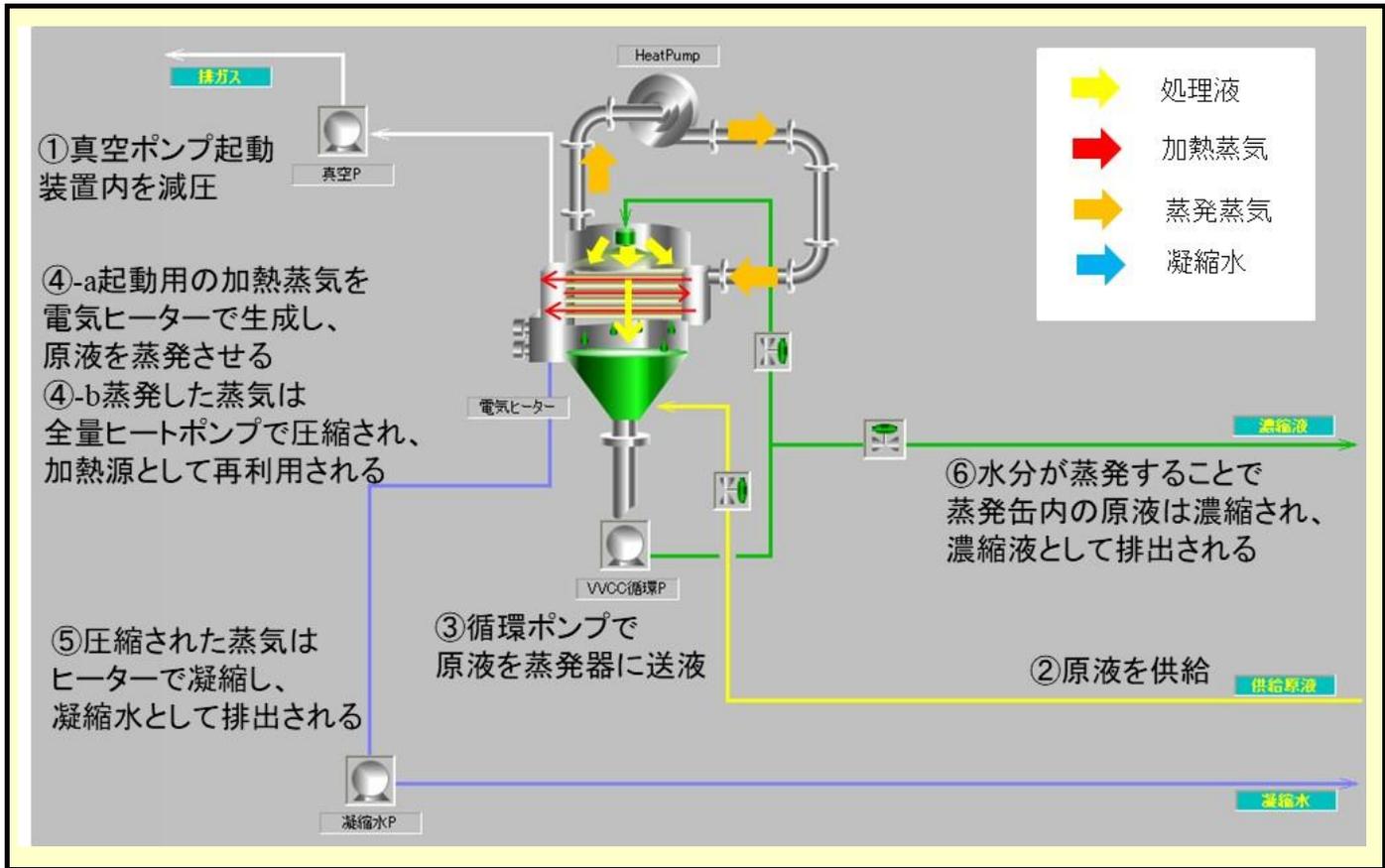
本小型蒸発濃縮装置の主要機器は水平多管式の真空蒸発器とヒートポンプ、電気ヒーターであり、加えて補機として、予熱器、送液ポンプ、及び真空ポンプにて構成される。電気ヒーターを搭載しているため、装置起動時に必要な蒸気は電気ヒーターを用いて作ることができる。そのため、外部からの蒸気供給が不要となる。小型のためほとんど分割されることなく現地に搬入し、必要最小限の再組立ての後、現地に据付けられる。蒸発器の容量およびヒートポンプの台数を変えることにより、1日当りの蒸発量として1tonから2.4ton程度まで対応が可能である。また、接液部の材質選定により腐食性の高い溶液への対応も可能であり、その適用範囲は幅広い。

先進性についての説明

従来の蒸発濃縮設備では、蒸発に必要なエネルギーの全量、あるいは設備効率を上げたものでも少なくとも30%を外部供給蒸気に頼っていた。また、処理液から発生した蒸発蒸気は全量あるいはその多くは利用することなく、大気開放あるいは凝縮器を介し装置外に排出していた。これに対し、本設備の先進性は下記である。

- ①当社独自の技術である水平管蒸発器により高い伝熱性能と小型化を達成
- ②ヒートポンプを組み合わせることで蒸発器内で蒸発した蒸気を昇圧・昇温し自己の加熱源として再利用する方式を採用
- ③従来設備よりもランニングコスト（消費電力）の削減を実現

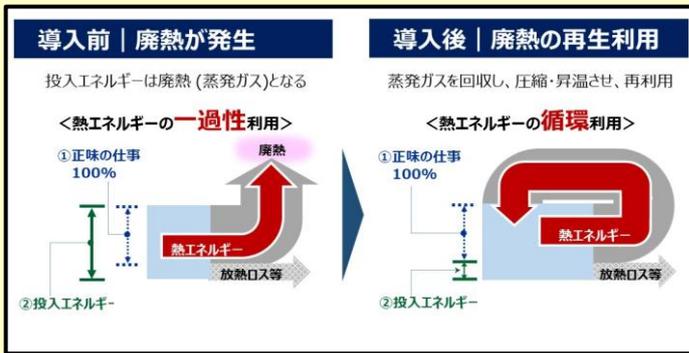
製品・システムの概要・イメージ図



導入事例の概要・イメージ図

業種・分野	対象設備・プロセス		
	従来設備	本設備	比較
排水中の水分を1ton蒸発させるのに要するエネルギー使用量 (原油換算)	210L/ton-[蒸発]	83L/ton-[蒸発]	127L/ton-[蒸発]削減
年間のエネルギー使用量 (原油換算)	75.6kL/年	29.9kL/年	45.7kL/年削減

図表<既設蒸気式装置を本設備に置き換える例>
 既設蒸気式装置では、蒸発に必要なエネルギーの全量を外部蒸気に頼っていた。排水から蒸発した蒸気は、蒸発潜熱としての膨大なエネルギーを有しているものの、コンデンサーにて冷却・凝縮させた後、下水排水していた。そこで本設備を導入し、蒸発蒸気を昇圧・昇温することで、加熱蒸気としての再利用が可能となり、エネルギー使用量を大幅に削減することができる。



更新範囲での省エネ率 60.5%